

業務指示書

コスタリカ国グアナカステ地熱開発セクターローン実施促進調査（ラス・パイラス II地熱貯留槽評価支援）

第1 指示書の適用

本指示書は独立行政法人国際協力機構(JICA)（以下「機構」という。）が実施する標記業務のうち、民間コンサルタント等（以下「コンサルタント」という。）により実施する業務に関する内容を示すものです。コンサルタントはこの業務指示書及び貸与された資料に基づき、本件業務に係るプロポーザル等を機構に提出するものとします。

なお、本指示書の第2「業務の目的・内容に関する事項」、第3「業務実施上の条件」は、この内容に基づき、コンサルタントがその一部を補足又は改善し、プロポーザルを提出することを妨げるものではありません。

本指示書に係る質問期限：2014年5月28日 12時 まで

問合せ先： 調達部契約第一課 大野 忠伸 Ono.Tadanobu@jica.go.jp

質問に対する回答： 2014年6月2日 までに機構ホームページ上に行います。

第2 業務の目的・内容に関する事項-----別紙のとおり

第3 業務実施上の条件-----別紙のとおり

第4 共同企業体の結成並びに補強の可否等

業務の規模が大きく、一社単独では望ましいレベルの業務従事者を確保することが困難であるか、又は業務の内容が広範にわたるため、業種又は分野ごと得意な社同士で共同企業体を結成することが望ましい案件について、競争を促進するために、必要最低限の範囲で共同企業体の結成を認める場合があります。

（各項目の（ ）に○を付したものが、指示内容です。）

1 共同企業体の結成の可否

（ ） 認めません。

（ ） 認めます。

（○） 認めます。ただし業務主任者（総括）は、共同企業体の代表者の者とします。

（ ） 者までの共同企業体の結成を認めます。ただし業務主任者（総括）は、共同企業体の代表者の者とします。

（ ） 協力準備調査、その他先に行われた調査参加コンサルタント

は、構成員にはなれません。

注1) 資格停止期間中のコンサルタントは、構成員になれません。

注2) 共同企業体構成員との再委託契約は認めません。

注3) 共同企業体の結成にあたっては、結成届をプロポーザルに添付し、プロポーザルに共同企業体結成の必要性を記載してください。

2 補強の可否

自社の経営者若しくは自社と雇用関係にある（原則、当該技術者の雇用保険や健康保険の事業主負担を行っている法人と当該技術者との関係をいう。複数の法人と雇用関係にある技術者の場合、主たる賃金を受ける雇用関係があるものをいう。）技術者の他業務従事状態から望ましいレベルの業務従事者を確保することが困難であるか、又は自社では確保が困難な担当分野である場合、自社と雇用関係のない技術者の「補強」を認める場合があります。

(各項目の () に○を付したものが、今回の指示内容です。)

() 全ての業務従事者について、補強を認めません。

(○) 以下の要件で、補強を認めます。

- 1) 共同企業体でプロポーザルを提出する場合は、代表者及び構成員ともに、現地業務に従事するそれぞれの業務従事者数（通訳団員の配置を認める場合はそれらを除く）の1/2まで補強を認めます。
- 2) 共同企業体を結成しない場合に限り、現地業務に従事する全業務従事者数（通訳団員の配置を認める場合はそれらを除く）の3/4まで補強を認めます。

【業務主任（総括）について】

(○) 業務主任者（総括）については補強を認めません。

() 業務主任者（総括）について補強を認めます。ただし、業務主任者が補強の場合には、副業務主任者（副総括）の配置は認めません。

【その他の業務従事者について】

() 次の団員については補強を認めません。

() 協力準備調査、その他先に行われた調査参加コンサルタント

からの補強は認めません。

- 注1) 共同企業体を結成する場合、その代表者または構成員となる社は他社の補強になることは認めません。
注2) 複数の社が同一の者を補強することは、これを妨げません。
注3) 資格停止期間中のコンサルタントからの補強は認めません。
注4) 評価対象業務従事者の補強にあたっては同意書をプロポーザルに添付してください。
評価対象外業務従事者については、契約交渉時若しくは補強を確定する際に同意書を提出してください。
注5) 補強として参加している社との再委託契約は認めません。
注6) 通訳については、補強を認めます。

3 外国籍人材の活用

(各項目の () に○を付したものが、今回の指示内容です。)

(○) 外国籍人材の活用を認めます。

- () 業務主任者を除き、外国籍人材の活用を認めます。ただし、当該業務全体の業務従事者数及び業務従事人月のそれぞれ2分の1を超えない範囲において認めます。
- () 業務主任者を除き、外国籍人材の活用を認めます。ただし、当該業務全体の業務従事者数及び業務従事人月のそれぞれ4分の1を超えない範囲において認めます。

注) 外国籍人材とは以下に該当する人材とします。

- ・プロポーザルを提出する法人に在籍する外国籍の人材で、常用の雇用関係を有するもの又は嘱託契約を締結しているもの
- ・プロポーザルを提出する法人の外部からの補強として当該業務に従事させる外国籍の人材。

第5 プロポーザルに記載されるべき事項

1 コンサルタントの経験、能力等

- (1) 類似業務の経験
- (2) 業務実施上のバックアップ体制等
- (3) その他参考となる情報

注) 類似業務：地熱開発に係る各種業務

2 業務の実施方針等

- (1) 業務実施の基本方針等
- (2) 業務実施の方法
- (3) 作業計画
- (4) 要員計画
- (5) 業務従事者毎の分担業務内容
- (6) 現地業務に必要な資機材
- (7) 実施設計・施工監理体制（無償資金協力を想定した協力準備調査の場合のみ）
- (8) その他

注1) (1)と(2)を併せた記載分量は、10ページ以下としてください。

注2) (4)要員計画について、評価対象外業務従事者の氏名及び所属先の記載は不要とし、契約交渉時、または遅くとも各業務従事者の作業開始時期までに双方で打合簿により確定するものとします。
なお、評価対象外業務従事者についての補強や外国籍人材の活用等については、契約交渉時、もしくは業務実施過程において、業務指示書で定める制限が遵守されていることを確認するものとします。

3 業務従事予定者の経験、能力等

業務にかかる総括責任者として、業務主任者（総括）を業務従事者の中から指名してください。なお、業務主任者に代えて、業務主任者と副業務主任者（副総括）を業務管理グループとして配置することを認める場合があります。

(1) 業務管理グループ

業務主任者と副業務主任者の配置計画を併せて業務管理グループを提案する場合、その配置の考え方、両者の役割分担等の考え方等について記載願います

(各項目の()に○を付したものが、指示内容です。)

() 業務管理グループ（副業務主任者の配置）を認めない。

(○) 業務管理グループ（副業務主任者の配置）を認める（ただし、副業務主任者を補強とすることは認めない）。副業務主任者は1名を上限とする。

注) 業務管理グループを認める全案件（業務指示書にて総括を1号以上としている案件を除く）においては、業務管理グループとしてシニア（46歳以上）と若手（35～45歳）が組んで応募する場合、3点の加点を行います。（「第9 プロポーザルの評価」参照）。

(2) 評価対象業務従事者の経験、能力等

【業務主任者（業務主任／地質）】

（業務管理グループにおける副業務主任者（副総括）も同様の項目）

- 1) 類似業務の経験：地質に係る業務
- 2) 対象国又は同類似地域（コスタリカ及び全途上国での業務の経験
- 3) 語学力（語学は認定書（写）を添付）英語

- 4) 業務主任者等としての経験
- 5) 学歴、職歴、取得学位、資格、研修受講実績等（照査技術者については必要資格の認定書（写）を必ず添付して下さい。）
- 6) 特記すべき類似業務の経験（類似職務経験を含む。）

【業務従事者：担当分野 貯留槽工学】

- 1) 類似業務の経験：貯留槽評価に係る業務
- 2) 対象国又は同類似地域（評価せず）
- 3) 語学力（語学評価せず）
- 4) 学歴、職歴、取得学位、資格、研修受講実績等（照査技術者については必要資格の認定書（写）を必ず添付して下さい。）
- 5) 特記すべき類似業務の経験（類似職務経験を含む。）

【業務従事者：担当分野 国際契約/プラント契約】

- 1) 類似業務の経験：国際契約、プラント契約に係る業務
- 2) 対象国又は同類似地域（コスタリカ 及び全途上国）での業務の経験
- 3) 語学力（語学は認定書（写）を添付） 英語
- 4) 学歴、職歴、取得学位、資格、研修受講実績等（照査技術者については必要資格の認定書（写）を必ず添付して下さい。）
- 5) 特記すべき類似業務の経験（類似職務経験を含む。）

第6 プロポーザルの提出手続き等

1 プロポーザルの提出期限、提出場所、提出物

- (1) 期限：2014年6月6日 12時
- (2) 場所：本機構本部1階 調達部受付
- (3) 提出物：プロポーザル 正1部 写4部
見積もり 正1部 写1部（次項第7参照）

2 プロポーザルの無効

次の各号のいずれかに該当するプロポーザルは無効とします。

- (1) 提出期限後にプロポーザルが提出されたとき
- (2) 提出されたプロポーザルに記名がないとき
- (3) 同一提案者から2通以上のプロポーザルが提出されたとき
- (4) プロポーザル提出者（共同企業体構成員を含む）が全省庁統一資格結果通知書を取得していない、またはJICAの事前の資格審査を受けていないとき
- (5) 既に受注している案件、契約交渉中の案件及び選定結果未通知の案件と業務期間が重なって同一の業務従事者の配置が計画されているとき
- (6) 機構が定める「独立行政法人国際協力機構契約競争参加資格停止措置規程」（平成20年規程（調）第42号）に基づく資格停止を受けている期間中である者又は当該者が構成員となる共同企業体からプロポーザルが提出されたとき（なお、プロポーザルの提出後であっても本指示書第8.2による審査結果の通知前に資格停止を受けたものを含みます。）
- (7) 虚偽の内容が記載されているとき
- (8) 前号に掲げるほか、本指示書又はコンサルタント契約関連規程に違反したとき

第7 見積価格及び内訳書

本件業務を実施するのに必要な経費の見積り（消費税を含まない）及びその内訳書正1部と写1部を密封して、プロポーザルとともに提出して下さい。見積書の作成に当たっては「コンサルタント等契約における見積書作成ガイドライン」を参照してください。

(URL : <http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/quotation.html>)

- 4 (各項目の () に○を付したものが、指示内容です。)

(各項目の()に○を付したものが、指示内容です。)

- () 本業務における一般業務費の見積りについては、定率化方式とし、一般業務比率の上限は、

- () 契約全体が複数の契約期間に分かれるため、各期間分及び全体分の見積りをそれぞれに作成して下さい。
- () 第2、第3で記載した事項のうち下記については、分けて見積って下さい。

- () 現地の治安状況が不安定であることから、業務従事者に対し、戦争保険(戦争危険担保特約)あるいはこれに相当する保険を付保することができます。付保する場合は、その経費を見積もって下さい。

- (○) 航空運賃及びエクセス料金については、別見積りとしてください。
航空運賃を見積る場合には、ZONE-PEX運賃を上限の単価として見積りを行って下さい。「業務実施契約等における正規割引航空運賃の利用について/通知(PR)第9-27004号」によりビジネスクラスの利用が認められる業務従事者の渡航については、ビジネスクラス正規割引運賃までを上限の単価として見積りを行って下さい。
なお、実際の航空券の手配にあたっては、上記見積額を上限としつつも、業務実施上の必要による経路の変更、予約の変更等の必要な緊急時の対応も考慮しつつ、より効率的であるとともに経済的な航空券の手配に努めてください。
- () 航空運賃及びエクセス料金については、別見積りとしてください。
航空運賃を見積る場合には、エコノミークラス普通運賃と制限付エコノミークラス(Y2)を比較のうえ、より安価な運賃を上限の単価として見積りを行って下さい。「業務実施契約等における正規割引航空運賃の利用について/通知(PR)第9-27004号」によりビジネスクラスの利用が認められる業務従事者の渡航については、ビジネスクラスの正規運賃までを上限の単価として見積りを行って下さい。

注) 外貨交換レートは以下のレートを使用して見積もってください。
(CRC1 = 0.190 円, US\$1 = 102.58 円, EUR1 = 142.01 円)

第8 プレゼンテーション

プロポーザルを評価する上で、より効果的かつ適切な評価をおこなうために、業務主任者等から業務の実施方針等についてプレゼンテーションを求める場合があります。

(各項目の()に○を付したものが、指示内容です。)

(○) プレゼンテーションは実施しません。

- () プロポーザル評価の一環として、以下の要領でプレゼンテーションを行っていただきます。その際、
 - () 業務主任者がプレゼンテーションを行ってください。ただし、業務主任者以外に1名の出席を認めます。
 - () 業務主任者又は副業務主任者、若しくは両者が共同してプレゼンテーションを行ってください。
なお、業務主任者または副業務主任者のみがプレゼンテーションを行う場合は、業務主任者または副業務主任者以外に1名の出席を認めます。

(1) 実施時期: ~

(各社の時間は、プロポーザル提出後、別途指示します。)

(2) 実施場所: 独立行政法人国際協力機構 会議室

(3) 実施方法：

- 1) 一社あたり最大、プレゼンテーション10分、質疑応答15分とします。
- 2) 機材を使用する場合は、コンサルタント等が準備するものとし、プロポーザル提出時、使用機材リストを調達部契約第一課・第二課まで報告するものとし、
(以下、各項目の()に○を付したものが、指示内容です。)

- () テレビ会議システムによる上記(2)の実施場所以外からの出席を認めません。
- () テレビ会議システムによる上記(2)の実施場所以外からの出席を認めます。その場合は、上記(2)の実施場所以外でのテレビ会議システムの準備はコンサルタント等が行うものとし、プロポーザル提出時、接続先等(接続先名、ISDN番号、使用機器のメーカー名・銘柄、担当者のアドレス・電話番号)を調達部契約第一課・第二課まで報告するものとし、条件等は、以下のとおりです。
- a) 本邦以外の場所より、ISDN回線を用いてコンサルタント等からJICA-Netに接続し、指定された実施日時にテレビ会議実施が可能な場合は、認めます。
 - b) JICA在外事務所のJICA-Netを使用しての出席は認めません。ただしJICA在外事務所主管案件の場合は、当該主管事務所からの出席を認めます。
 - c) 接続にかかる費用は、コンサルタント等の負担とします。ただしJICA在外事務所主管案件で、当該主管事務所より出席する場合は、この限りではありません。

第9 プロポーザルの評価

1 プロポーザルの評価基準

本件業務では別紙のプロポーザル評価表に従いプロポーザルの評価(技術評価)を行います。

業務管理グループにおける副業務主任者(副総括)は業務主任者(総括)と同様の項目・基準で評価を行います。

注) 業務管理グループを認める全案件(業務指示書にて総括を1号以上としている案件を除く)においては、業務管理グループとしてシニア(46歳以上)と若手(35~45歳)が組んで応募する場合(どちらが総括でも可)、一律3点の加点(若手育成加点)を行います。なお、45歳以下でも上位格付認定により1号以上となる場合は「シニア」とみなし、「若手」と組んだ場合は加点対象とします。(年齢は当該年度(公示日の属する年度。再公示の場合は再公示日の属する年度。)4月1日時点での満年齢とします。)ただし、「1. コンサルタント等の法人としての経験・能力」、「2. 業務の実施方針」、「3. 業務従事予定者の経験能力」の合計が70点未満の場合は、加点は行いません。

技術評価及び若手育成加点の結果、各プロポーザル提出者の評価点について第1順位と第2順位以下との差が僅少である場合に限り、第7により提出された見積価格を参考として交渉順位を決定します。

具体的には、技術評価点及び若手育成加点の合計の差が第1位の者の点数の2.5%以内であれば、見積価格が最も低い者に価格点として最大2.5点を加点し、その他の者に最低見積価格との差に応じた価格点を加点します。

(1) 評価対象とする業務従事者の担当分野

業務主任/地質
貯留槽工学
国際契約/プラント契約

(2) 評価対象とする業務従事者の予定人月数

5.83 M/M

2 評価結果の通知

提出されたプロポーザルは当機構で評価・選考の上、2014年6月20日(金)までにプロポーザルを特定し、各プロポーザル提出者に契約交渉順位を通知します。

3 評価結果の公表

評価結果については、以下の項目を機構ホームページに公開することとします。

(1) プロポーザルの提出者名

・契約交渉順第1位の者の名称のみを公開し、第2位以下の者の名称は非公開とする。

(2) プロポーザルの提出者の評価点

・以下の評価項目別小計及び合計点を公表する。

①コンサルタント等の法人としての経験・能力

②業務の実施方針等

③業務従事予定者の経験・能力

④若手育成加点*

⑤価格点*

*④、⑤は該当する場合のみ（若手育成加点及び価格点については「第9 プロポーザルの評価
1 プロポーザルの評価基準」参照）。

・基準点に達しない者については「基準下」とのみ記載する。

第10 その他

1 配布・貸与資料

機構が配布・貸与した資料は、本件業務のプロポーザルを作成するためのみに使用することとし、複写又は他の目的のために転用等使用しないで下さい。

2 プロポーザルの報酬

プロポーザル及び見積書の作成、提出に対しては、報酬を支払いません。

3 プロポーザルの目的外不使用

プロポーザル及び見積書は、本件業務の契約交渉順位を決定し、また、契約交渉を行う目的以外に使用しません。

4 プロポーザルの返却

不採用となったプロポーザル（正）及び見積書（正）は、各プロポーザル提出者の要望があれば返却しますので選定結果通知後2週間以内に受け取りに来て下さい。また、不採用となったプロポーザルで提案された計画、手法は無断で使用しません。

5 虚偽のプロポーザル

プロポーザルに虚偽の記載をした場合には、プロポーザルを無効とするとともに、虚偽の記載をしたプロポーザル提出者に対して資格停止措置を行うことがあります。

6 プロポーザル作成に当たっての資料

プロポーザルの作成にあたっての参考情報は以下のとおりです。

(1) 「プロポーザル作成ガイドライン」：

JICAホームページ「調達情報」中「調達ガイドライン、様式」>>「調達ガイドライン コンサルタント等の調達」>>「コンサルタント等契約におけるプロポーザル作成ガイドライン」

(URL: <http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/proposal.html>)

(ハードコピーでの販売・配布は行っておりません)。

(2) 業務実施契約に係る様式：

同上ホームページ「調達情報」中「調達ガイドライン、様式」>>「様式 コンサルタント等の調達 業務実施契約」

(URL: http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_g/index.html)

(3) 規程：

同上ホームページ「調達情報」中「調達ガイドライン、様式」規程

(URL: <http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/common/index.html>)

(4) 調達ガイドライン (コンサルタント等契約)：

同上ホームページ「調達情報」中「調達ガイドライン、様式」調達ガイドライン コンサルタント等の調達

(URL: <http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/index.html>)

7 密接な関係にあると考えられる法人との契約に関する情報公開について

契約先に関する以下の情報を機構ホームページ上で以下のとおり公表することとしますので、本内容に同意の上で、プロポーザルの提出及び契約の締結を行っていただきますようお願いいたします。なお、案件へのプロポーザルの提出及び契約の締結をもって、本件公表に同意されたものとみなさせていただきます。

(1) 公表の対象となる契約相手方取引先 (共同企業体を結成する場合は共同企業体の構成員を含む。)

次のいずれにも該当する契約相手方を対象とします。

ア. 当該契約の締結日において、当機構で役員を経験した者が再就職していること、又は当機構で課長相当職以上の職を経験した者が役員等(注)として再就職していること

注) 役員等とは、役員のほか、相談役、顧問その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、経営や業務運営について、助言することなどにより影響力を与え得ると認められる者を含みます。

イ. 当機構との間の取引高が総売上又は事業収入の3分の1以上を占めていること

(2) 公表する情報

契約ごとに、物品役務等の名称及び数量、契約締結日、契約相手方の氏名・住所、契約金額とあわせ、次に掲げる情報を公表します。

ア. 対象となる再就職者の人数、再就職先での現在の職名、当機構での最終職名 (氏名は公表しない。)

イ. 契約相手方の直近の財務諸表における当機構との取引高

ウ. 総売上高又は事業収入に占める当機構との間の取引割合

エ. 一者応札又は応募である場合はその旨

(3) 当機構の役職員経験者の有無の確認日

当該契約の締結日とします。

(4) 情報の提供

契約締結日から1ヶ月以内に、所定の様式にて必要な情報を提供頂くことになります。

8 本体事業からの排除

以下、各項目の () に○を付したものが、指示内容です。)

- () 本件受注コンサルタント (JV構成員及び補強を含む。) は、本業務 (協力準備調査) の結果に基づき当機構による無償資金協力が実施される場合は、設計・施工監理契約以外の役務及び財の調達から排除される (その場合は、受注コンサルタント等が製造、販売する資機材も排除される) 見込みです。
- () 本件受注コンサルタント (JV構成員及び補強を含む。) 及びその関連会社/系列会社 (親会社を含む。) は、本業務 (詳細設計) の結果に基づき当機構による有償資金協力が実施される場合は、施工監理業務 (調達補助を含む。) 以外の役務 (審査、評価を含む。) 及び財の調達から排除されます。

9 案件の延期又は中止について

治安の急変等により案件が延期又は中止になることがありますので、予めご留意ください。

以上

プロポーザル評価表

コスタリカ国グアナカステ地熱開発セクターローン実施促進調査（ラス・パイラスII
地熱貯留槽評価支援）

評価項目	配点	
1. コンサルタント等の法人としての経験・能力	(10.00)	
(1) 類似業務の経験	6.00	
(2) 業務実施上のバックアップ体制等	4.00	
2. 業務の実施方針等	(40.00)	
(1) 業務実施の基本方針の的確性	16.00	
(2) 業務実施の方法の具体性、現実性等	18.00	
(3) 要員計画等の妥当性	6.00	
(4) その他（実施設計・施工監理体制）		
3. 業務従事予定者の経験・能力	(50.00)	
(1) 業務主任者の経験・能力/ 業務管理グループの評価	(26.00)	
	業務主任者 のみ	業務管理 グループ
①業務主任者の経験・能力 業務主任/地質	(26.00)	(11.00)
ア) 類似業務の経験	10.00	4.00
イ) 対象国又は同類似地域での業務経験	3.00	1.00
ウ) 語学力	4.00	2.00
エ) 業務主任者等としての経験	5.00	2.00
オ) その他学位、資格等	4.00	2.00
②副業務主任者	(-)	(11.00)
カ) 類似業務の経験	-	4.00
キ) 対象国又は同類似地域での業務経験	-	1.00
ク) 語学力	-	2.00
ケ) 業務主任者等としての経験	-	2.00
コ) その他学位、資格等	-	2.00
③体制、プレゼンテーション	()	(4.00)
サ) 業務主任者等によるプレゼンテーション		
シ) 業務管理体制	-	4.00
(2) 業務従事者の経験・能力： 貯留槽工学	(12.00)	
ア) 類似業務の経験	8.00	
イ) 対象国又は同類似地域での業務経験		
ウ) 語学力		
エ) その他学位、資格等	4.00	
(3) 業務従事者の経験・能力： 国際契約/プラント契約	(12.00)	
ア) 類似業務の経験	6.00	
イ) 対象国又は同類似地域での業務経験	1.00	
ウ) 語学力	2.00	
エ) その他学位、資格等	3.00	
(4) 業務従事者の経験・能力：	()	
ア) 類似業務の経験		
イ) 対象国又は同類似地域での業務経験		
ウ) 語学力		
エ) その他学位、資格等		
(5) 業務従事者の経験・能力：	()	
ア) 類似業務の経験		
イ) 対象国又は同類似地域での業務経験		
ウ) 語学力		
エ) その他学位、資格等		
総合評点	[100.00]	

【第2. 業務の目的・内容に関する事項】

1. 背景

コスタリカは近年 GDP 平均成長率 4.6% (2006 年～2011 年) という順調な経済成長を達成しており、今後の電力需要増が想定されているところ、これに対応するために、新たな電源開発による発電量の増強が必要となっている。

2011 年現在、再生可能エネルギーである水力が最大の電源となっているが、雨季と乾季の降雨量の差が激しい同国における水力発電は、乾季における降水量の減少により発電量が低下するという問題を抱えている。水力発電量の低下分は高コストの輸入化石燃料を使用した火力発電により補われており、温室効果ガス排出量の増大のみならず同国の発電コストを押し上げる要因となっている。他方、水力に次ぐ同国第二の再生可能エネルギーである地熱発電は、年間を通じて安定的な電力供給が可能であり、温室効果ガス排出削減への貢献も期待されることから、同国における発電量増強手段として、これまで以上に重要性を高めており、同国の地熱開発への期待は高い。

かかる状況下、JICA は、同国の地熱エネルギーによる電力供給量の増強を支援すべく、2011 年 7 月から 2014 年 3 月まで協力準備調査を実施した。その結果、ラス・パイラス II、ポリンケン I 及び II の 3 つの地熱フィールドを対象とする円借款「グアナカステ地熱開発セクターローン」を形成し、日本政府は右円借款に関し 2013 年 3 月に事前通報、同 11 月に交換公文 E/N を締結した。JICA は借款契約書 L/A に関するコスタリカ国内手続きを容易にするため、E/N と同時にコスタリカ政府及びコスタリカ電力公社 (ICE) との間で同円借款にかかる協力協定書 (Cooperation Agreement : C/A) に調印し、現在 C/A はコスタリカ国会審議中となっている。

グアナカステ地熱開発セクターローンを構成する 1 件目の案件、ラス・パイラス II (以下、「本事業」という。) に関しては、コスタリカ国内制度上 C/A の国会承認を経て L/A に調印するまで ICE は L/A の規定に基づいた円借款事業のためのコンサルタント雇用を進めることが出来ない。本事業に関する L/A 調印の前提となる C/A の国会承認は 2014 年 5 月と見込まれており、結果 L/A 調印は同年 6 月と見込まれているため、円借款のコンサルタント雇用は、必要手続きを経た後となる。

一方で、L/A の借入人・実施機関である ICE は自己資金により本事業の生産井掘削に着手済みであり、得られた掘削データをもとに地下貯留槽評価 (概念モデル更新) を並行して進める必要性が生じているが、適切な評価、生産井掘削プロセスを最適化するため、ICE は国際経験に基づく専門的な助言を受けることを必要としている。本事業の地下貯留槽評価 (概念モデル更新) は、その後の数値モデル作成を経て、本体プラントの仕様決定の前提条件となるため、当該概念モデル更新の遅延は、本円借款事業の実施遅延を招来することになる。かかる L/A 調印までのスケジュール上のギャップについては本事業審査時に認識されていたため、ICE は JICA に対して技術支援を要請した。

また、ICE はこれまで円借款事業の実績があるものの、本事業は 2008 年の組織改編を受けた新 JICA 発足後初めての円借款事業であり、新 JICA では調達ガイドラインの改訂に加え、L/A において JICA の標準入札書類の使用を義務付けるなど、調達関連ルールに大幅な変更が行われている。特に標準入札書類の使用に関しては、ICE として、法的確認を含め、十分に習熟しなければ、調達プロセスの遅延を招来する可能性が高いとし、本事業審査時に、円借款標準入札書類を念頭にエネルギー分野の国際契約/プラント契約に関する研修支援を ICE は JICA に対して要請した。

2. 業務の目的

- (1) 事業の効率的な進捗のために、高精度な貯留槽評価が実施され、掘削計画の最適化が行われる。
- (2) 事業実施の迅速化のため、ICE が円借款の調達手続きに習熟する。

3. 業務の対象地域

コスタリカ共和国 グアナカステ県ラス・パイラス地区

4. 相手国関係機関

コスタリカ電力公社 (ICE)

5. 業務の範囲

本業務は、「2. 業務の目的」を達成するため、「6. 業務上の留意点」に配慮しつつ、「7. 業務の内容」に示す業務を実施し、「8. 成果品等」に示す報告書等を作成するものである。なお、調査報告書

の作成に当たっては、JICA と協議しつつ進めるものとする。

6. 業務上の留意点

(1) 業務のアプローチ

本業務は ICE と協力して実施するため、ICE との情報共有・合意を図りながら進める必要がある。

(2) 情報収集

本業務に当たっては、ICE が実施したラス・パイラス II プロジェクトの地熱ポテンシャルに係る調査結果や、ICE が自己資金にて掘削中の井戸から得られる調査データを有効活用した、効率的な調査をすることを念頭に置くこと。

(3) 情報共有

本業務は、貯留槽の適切な評価、生産井及び還元井掘削プロセスの最適化等のための調査であり、状況に応じて、迅速な情報提供が必要となる可能性もあり、JICA と十分な情報共有を行いながら進める。

7. 業務の内容

(1) 第一次国内作業

- ① ICE が実施したラス・パイラス II プロジェクトの地熱ポテンシャルに係る調査結果やその他既存の各種データのレビューを行う。
- ② ラス・パイラス II 発電プラントのコンセプトualデザイン等の各種最新データを ICE から取得する。
- ③ 本調査で更新・収集が必要な情報を整理し、調査方法、作業計画を検討の上、インセプション・レポートを作成の上、JICA 中南米部へ説明・提出し、承認を得る。

(2) 第一次現地調査

- ① インセプション・レポートにつき、ICE に説明・協議し、必要に応じて修正を加える。
- ② 円借款標準入札書類を用いた調達手続きに関し、ICE への OJT を含んだエネルギー分野の国際契約/プラント契約にかかる研修を実施。
- ③ ICE が作成中のラス・パイラス II 発電プラントのコンセプトualデザインの最適化のためのレビュー及び助言を行う。

(3) 第二次国内作業

- ① 掘削、噴気試験など各種調査データをもとに、開発可能量推定のための地熱貯留層の総合評価にかかる助言を ICE に行う。(インターネット経由のデータ授受及びスカイプ等のテレビ会議経由)
- ② 井戸掘削計画の最適化のための助言を ICE に行う(インターネット経由のデータ授受及びスカイプ等のテレビ会議経由)
- ③ 地熱貯留槽概念モデルの更新作業に十分な各種調査データが取得された後、活動・調査の進捗、概念モデルの更新及び貯留槽数値モデルの作成指針の作成にかかる作業計画等の調査予定についてインテリム・レポートを作成する。
- ④ 現地調査報告を適宜 JICA 中南米部に行う。

(4) 第二次現地調査

- ① インテリム・レポートにつき、ICE に説明・協議し、必要に応じて修正を加える。
- ② 地熱貯留槽概念モデルの更新作業に必要な分析結果、同モデルの更新作業計画につき、ICE に説明する。
- ③ 貯留槽数値モデルの作成指針の作成につき、作業計画を ICE に説明する。
- ④ 必要に応じてフィールド調査を実施。

(5) 第三次国内作業

- ① 掘削、噴気試験など各種調査データをもとに、開発可能量推定のための地熱貯留層の総合評価にかかる助言を ICE に行う。(インターネット経由のデータ授受及びスカイプ等のテレビ会議経由)
- ② 井戸掘削計画の最適化のための助言を ICE に行う(インターネット経由のデータ授受及びスカイプ等のテレビ会議経由)
- ③ インテリム・レポートにつき、JICA 中南米部へ説明・提出し、承認を得る。

- ④ ICEによる掘削にて得られる地質、地化学、抗井データ分析、既存の物理探査結果及びその他各種データを踏まえ地熱貯留層の概念モデルの更新及び助言を行う。(インターネット経由のデータ授受及びスカイプ等のテレビ会議経由)
 - ⑤ 各種調査結果を踏まえ、貯留槽数値モデルの作成指針案を作成する。
 - ⑥ 全調査結果を取りまとめたドラフト・ファイナルレポートを作成の上、JICA 中南米部へ説明・提出し、承認を得る。
 - ⑦ 現地調査報告を適宜 JICA 中南米部に行う。
- (6) 第三次現地調査
- ① ドラフト・ファイナルレポートにつき、ICEに説明・協議し、必要に応じて修正を加える。
- (7) 第四次国内作業
- ① 第四次現地調査結果を踏まえ、ファイナル・レポートを作成の上、JICA 中南米部へ説明・提出し、承認を得る。

8. 成果品等

- (1) 業務の各段階で作成・提出する報告書等は以下のとおり。このうちファイナル・レポートを最終成果品とする。なお、最終報告書の仕様は、「コンサルタント等契約における報告書の印刷・電子媒体に関するガイドライン」(2010年3月)に基づくものとし、各成果品において電子データも併せて提出のこと。各報告書の各関係機関への説明・協議に際しては、JICAに説明の上、その内容について承認を得るものとする。

① インセプション・レポート (IC/R)

記載事項：業務の基本方針、方法、作業工程、要員計画、業務フローチャート

提出時期：調査開始時(2014年7月上旬を想定)

部数：和文3部、西文3部、英文3部(簡易製本)

② インテリム・レポート (IT/R)

記載事項：活動内容、調査の進捗、調査予定、調査実施上の留意点・課題・工夫・教訓

提出時期：調査2014年12月下旬を想定

部数：和文3部、西文3部、英文3部(簡易製本)

③ ドラフト・ファイナルレポート (DF/R)

記載事項：全調査結果

提出時期：調査2015年2月上旬を想定

部数：和文3部、西文3部、英文3部(簡易製本)

④ ファイナル・レポート (F/R)

記載事項：DF/Rに対して必要な修正、追記を行った全調査結果

提出時期：2015年3月上旬を想定

部数：和文3部、西文3部、英文3部、CD-R3枚

⑤ その他の提出物

ア) 議事録等

各報告書にかかる ICE との協議概要を協議議事録 (M/M) に取りまとめ、JICA に速やかに提出する。

提出時期：その都度

イ) 作成及び収集した資料、データ(撮影写真を含む)及びそのリスト

なお、各種レポートへの別添とすることにより提出を省略することも可とするが、詳細は JICA の指示に従うこととする。

提出時期：その都度

ウ) その他

上記提出物の他、JICA が必要と認め、書面により報告を求める場合には、速やかに提出する。

(2) 報告書作成にあたっての留意点

- ① 各報告書はその内容を的確かつ簡潔に記述し、必要に応じ図や表を活用する。また、英文等の外国語についても十分なチェックを行い、読みやすいものとする。報告書本文中で使用

するデータ及び情報については、その出典を明記する。

- ② 報告書が主報告書と資料編の分冊形式になる場合は、主報告書とデータの根拠（資料編の項目）との照合が容易に行えるよう工夫を施す。

【第3. 業務実施上の条件】

1. 業務の工程

本業務の実施期間は2014年7月上旬から2015年3月上旬までとし、以下を想定しているが、より効率的、効果的な作業工程があればプロポーザルで提案すること。

	2014						2015		
	7	8	9	10	11	12	1	2	3
第一次国内作業									
①既存資料のレビュー及び各種最新データの取得									
②IC/Rの提出	△								
第一次現地調査									
①JICEに対するIC/Rの説明・協議・修正									
②調達手続きにかかる研修									
③発電プラントのコンセプトデザインのレビュー及び助言									
第二次国内作業(適宜テレビ会議を実施)									
①各種調査データ分析									
②貯留槽総合評価支援									
③井戸掘削計画最適化支援									
④JICAに対する現地作業報告									
第二次現地調査									
①JICEに対する調査報告									
第三次国内作業(適宜テレビ会議を実施)									
①各種調査データ分析									
②貯留槽総合評価支援									
③井戸掘削計画最適化支援									
④概念モデル更新支援									
⑤貯留槽数値モデルの作成指針の作成									
⑥JIT/Rの提出							△		
⑦DF/Rの提出								△	
⑧JICAに対する現地作業報告									
第三次現地調査									
①JICEに対するDF/Rの説明・協議・修正									
第四次国内作業									
①F/Rの提出									△

2. 業務量目処と業務従事者の構成

(1) 全体 M/M : 15M/M

(2) 想定する業務従事者の構成案

本業務には、以下に示す分野を担当する専門家の配置を想定するが、コンサルタントは、業務内容を考慮の上、適切な専門家の配置をプロポーザルにて提案することとする。また、記載の格付は目安であり、以下の格付を超えた格付の提案も認める。ただし、目安を超える格付の提案を行う場合には、その理由及び人件費を含めた事業費全体の経費節減の工夫をプロポーザルに明記すること。

- ① 業務主任/地質 : (2号)
- ② 貯留槽工学 : (3号)
- ③ 国際契約/プラント契約 : (3号)
- ④ 物理探査
- ⑤ 地化学
- ⑥ 掘削井評価
- ⑦ 地熱プラント
- ⑧ 業務調整/国際契約補助

(3) 業務実施上必要に応じ、通訳を業務補助員として現地又は第三国から傭上することを可とする。雇用に係る経費は見積に価格を含めること。

3. 対象国の便宜供与

- (1) 安全対策措置
- (2) 医療サービス情報提供及び支援
- (3) 身分証明書発行
- (4) 執務室提供、事務補助員傭上、執務環境整備等
- (5) 一部免税措置 (コスタリカの国内法上可能な場合)

4. 現地再委託

本業務では、現地再委託は見込んでいないものの必要であると判断する場合にはプロポーザルで提案し、その部分に係る必要な経費は全て見積書に含めること。現地再委託にあつては、「コンサルタ

ント等契約における現地再委託契約ガイドライン」(2012年4月)に則り選定及び契約を行うこととし、委託業者の業務遂行に関しては、現地において適切な監督、指示を行うこと。プロポーザルでは、現地再委託対象業務の実施方法と契約手続き(見積書による価格比較、入札など)、価格競争に参加を想定している現地業者の候補者名並びに現地再委託業務の監督・成果品の検査の方法など、より具体的な提案を可能な範囲で行うこと。

5. 配布資料及び関連資料

本業務に関する以下の資料が、当機構環境社会配慮のページ(http://www.jica.go.jp/english/our_work/social_environmental/id/america/category_a_b-fi.html)で公開されています。

・「コスタリカ国グアナカステ地熱開発事業協力準備調査ラス・パイラスIIドラフト・ファイナルレポート(2)公開用」

報告書 URL:

https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/Data/DocforEnvironment/Reports/CentralAmericaCaribbean/CostaricaPSGGDProject/CostaricaPSGGD_DFR.pdf

6. その他留意事項

- (1) 現地調査期間は安全管理に十分留意する。地域の治安状況については、在コスタリカ日本大使館・JICA コスタリカ支所等において十分な情報収集を行うとともに、現地作業時の安全確保のための関係諸機関に対する協力依頼及び調整作業を十分に行う。
- (2) 先方関係機関、在コスタリカ日本大使館、JICA コスタリカ支所及び JICA 中南米部との連絡を緊密に行い、調査進捗状況の報告に当たっては、資料を用いて効果的・効率的な報告となるよう配慮すること。
- (3) 通訳の備上を認めるため必須ではないものの、効率的な業務実施の観点から西語での業務が可能な団員が業務従事者に含まれることが望ましい。

以上